

アンサンブル ソラ
Ensemble Solla

3



2012-02-05

ごあいさつ

Ensemble SolLa (アンサンブル ソラ) の第3回演奏会によるこそ。今回は、シューマンの重唱曲や、日本語の2部合唱曲に加え、アンサンブルの原点、2人の声だけという編成を加えてみました。ソノリティ(音の鳴り具合)という点から、大きな会場で聴かせることはむずかしく、本日のような場所でなければできないプログラムです。

Ensemble SolLa では、二人以上の歌や歌と楽器など複数の人で演奏するアンサンブルの活動をしています。いちおうクラシック音楽の枠組み内で、広いジャンル、時代の音楽を演奏していきたいと思っています。(そうでないと演奏する曲がないというせいもありますが)。

現代の音楽の流通は、そのほとんどがマイク・スピーカーを通した電氣的音響を通して行われます。しかし、声であれピアノであれ一旦電氣的になった音は、もとの楽器とはどうしても異なった音です。この違いは、性能のよい音響機器で音の忠実な再現を目指せば目指す程あらわになります。私たちは、生の音を前提とした音楽活動をしていきたいと思っています。

また、生の演奏会ということも大切にしていきたいものの一つです。行儀のよすぎる日本のお客さんからでも伝わってくる反応は、やり直しのきかない一回限りの演奏というものに大きな影響を与えます。これは、CDや放送用の録音とは全く異なる演奏活動です。お客さんの方も、少し聴いて飽きたからといってスイッチを切るわけにはいかないわけで、そこに交流が生まれる、そういうような演奏会ができれば、と考えています。

プログラム

1. シューマン (1810-1856)

- 《4つの二重唱曲》 op. 78 (1849)
《ダンスの歌》 op. 78-1
《彼と彼女》 op. 78-2
《君を想う》 op. 78-3
《子守歌》 op. 78-4
《私はあなたの樹》 op. 101-3 (1849)
《千の挨拶》 op. 101-7 (1849)
《トロイメライ》 op. 15-7 (1838)

- Schumann, Robert, 1810-1856
Vier Duette für Sopran und Tenor, op. 78
Tanzlied
Er und Sie
Ich denke dein
Wiegenlied
Ich bin dein Baum
Die tausend Grüße, die wir dir senden
Träumerei

2. E. サティ (1866-1925)

- 《3つのメロディー》 1916
《やさしく》 (1902)
《あなたがほしい》 (1897)

- Erik Satie, 1866-1925
Trois melodies
Tendrement
Je te veux

休憩

3. ルネサンスメロディー (16世紀)

- セルミジ 《生きる限り》 (1528 出版) Caludin de Sermisy, Tant que vivray
アルカデルト 《男たちが》 (1554 出版) Jacques Arcadelt, Nous voyons
《バラが咲きいでた》 (1599 出版) Es ist ein Ros entsprungen
ハスラー 《私の心はみだれている》 (1601 出版) Hans Leo Hassler, Mein Gmüt ist

4. M. ラベル

- 《ハイドンの名によるメヌエット》 (1909) Maurice Ravel, 1875-1937
Menuet sur le nom de Haydn

5. 新実徳英, 1947-

- 《のはらうた》 工藤直子詩 1987 出版 より
〈こんにちは〉 〈ひかるもの〉
〈はるがきた〉 〈おれはかまきり〉
〈はなのみち〉 〈ふところ〉
〈よるのもり〉 〈かたつむりのゆめ〉
〈あきのひ〉 〈さびしいよる〉
〈さかさま〉

プログラムノート

1. 《4つの二重唱》op.78は、ソプラノとテノールのための二重唱曲集である。シューマンは、同じ編成の《4つの二重唱》op.34を1840年に書いている（Ensemble SolLa 2で演奏した曲集）。Op.78の第1曲は1849年の8月25日に書かれ、第2曲9月2日、第3曲9月3日、第4曲が9月4日に書かれた。好調時のシューマンにとっては普通のことらしいが、驚くべき速度と言わざるを得ない。第1曲と第2曲との間があいているのは、8月28日がゲーテの生誕100年の記念日で、その前後に行われたイベントで指揮をするなど多くの用事を抱えていたためらしい。この曲集は、1850年にカッセルのLuckhardtから出版された。

第1曲《ダンスの歌》Tanzliedは、ダンスに行きたい彼女と、行くのがいやだという彼のやりとり。シューマンはop.34でも男と女で異なる歌詞を重ねて2重唱にするという技法を使っているが、この曲ではさらに、異なる感情を表出するという新しい試みを行っている。ピアノは、ダンスのワルツを奏でたり、男声の感情に寄り添ったり、女声の感情に沿ってはねたりしながら進む。ちなみに、シューマンはダンスが得意ではなかったらしい。

Tanzlied / Friedrich Rückert

Sie:

Eia, wie flattert der Kranz,
Trauter, komm mit mir zum Tanz!
Wollen uns schwingen,
rasch uns erspringen
mitten im wonnigen Glanz,
Trauter, komm mit mir zum Tanz!

Er:

Weh, wie pocht mir das Herz,
sage, was soll mir der Scherz?
Laß dich umschließen,
laß mich zerfließen,
ruhend in seligem Schmerz,
sage, was soll mir der Scherz?

Sie:

Eia, der Walzer erklingt,
Pärchen an Pärchen sich schwingt,
Mädchen und Bübchen,
Schelmchen und Liebchen!
Frisch, wo's am dichtesten springt,
Pärchen an Pärchen sich schwingt,

ダンスの歌 / リュッカート

彼女:

見て このひらひらした花冠
一緒にダンスに行きましょうよ、貴男！
手をつないでまわったり
飛び跳ねたいの
楽しい光の中で。
一緒にダンスに行きましょうよ、貴男！

彼:

あ〜あ こんなに心臓がどきどきしてる
冗談言わないでくれ。
抱かせておくれ、
とろけさせておくれ、
至福の苦痛の中で休ませておくれ。
冗談言うんじゃないよ。

彼女:

ほら ワルツが鳴ってるわ
カップルが次々に跳び込んでいく
娘も若者も
いたずら者もかわいいのも！
さあ早く、踊りの集団の中へ、
カップルが次々に跳び込んでいく

Er:
Weh! Mir sinket der Arm
mitten im jauchzenden Schwarm.
Wie sie dich fassen,
muß ich erblassen,
möchte vergehen in Harm
mitten im jauchzenden Schwarm.

Sie:
Eia, wie flattert der Kranz,
heute für alle im Tanz,
flutterig heute,
morgen gescheute,
morgen, o Trauter, dein ganz!
heute für alle im Tanz.

彼:
あ〜あ 腕があがらない
ワーワーした雑踏の中では
彼らが君をつかまえたら、
僕は真っ青になっちゃうよ、
悲嘆のうちに死んでしまうかもしれない。
ワーワーした雑踏の中では。

彼女:
見て このひらひらした花冠
今日は ダンスがすべてよ
今日は あちこち浮気者、
明日は 恥ずかしいけど、
明日は 貴男、すべてあなたのもの！
今日は ダンスがすべてよ。

原調 G→演奏 F

第2曲《彼と彼女》Er und Sie も、男と女の異なる歌詞を重ねるという技法を使っている。詩は彼と彼女が異なる場所で異なるものの中に互いの姿を想い合うというもの。ほとんど絶え間のないピアノの3連符と、オブリガートのような高音が印象的である。後半、歌詞と旋律は男声の第1節、女声の第2節の2重唱となり、それぞれの4行目、たった1文字だけ異なる言葉を一緒に歌って終わる。

Er und Sie / Justinus Kerner

Er:
Seh ich in das stille Tal,
wo im Sonnenscheine
Blumen prangen ohne Zahl,
blick ich nur auf eine.

Sie:
Tret ich an mein Fensterlein,
wenn die Sterne scheinen,
mögen alle schöner sein,
blick ich nur auf einen;

Er:
Ach! es blickt ihr Auge blau
jetzt auch auf die Auen;
im Vergißmeinnicht voll Tau
kann ich es erschauen.

彼と彼女 / ケルナー

彼:
私は 静かな谷間を見おろし
日の光で
無数の花が光り輝く中
たった一つの花だけを見つめる。

彼女:
私は 部屋のお気に入りの窓に歩み寄る、
星が光りはじめ、
すべての星が美しく輝いても、
たった一つの星だけを見つめる。

彼:
ああ！彼女の青い瞳は
今 緑の野を同じように見つめる；
わすれなぐさの花に満ちた露を
私の心は感じとれる。

Sie:
Dort gen Abend blickt er mild
wohl nach Himmelshöhen,
denn dort ist sein liebes Bild
in dem Stern zu sehen.

彼女:
そこで彼は夕宵の
天空の高みへ穏やかなまなざしをむける、
なぜなら 彼の愛する姿を
星の中に見ているから。

原調 Es→演奏 Des

第3曲は、ゲーテの詩《恋人のそばに》Nähe des Geliebten に作曲されている。シューベルトがこのタイトルで歌曲(D162)を残しているが、シューマンはこのタイトルをさけた。もとのタイトルでは、恋人 des Geliebten が男性形であるため、想われているのは男で、歌っているのが女ということになる。英国のピアニスト Graham Johnson の説によれば、シューマンはクララに対する自分の想いという歌にしたかったために、そうしたのではないかという。訳もその説に従った。2声がり寄り添って歌う「メンデルスゾーン風」の2重唱で、ロマンチックな色の濃い佳品。

Ich denke dein / J. W. von Goethe

Ich denke dein, wenn mir der Sonne Schimmer
vom Meere strahlt;
ich denke dein, wenn sich des Mondes Flimmer
in Quellen malt.

Ich sehe dich, wenn auf dem fernen Wege
der Staub sich hebt;
In tiefer Nacht, wenn auf dem schmalen Stege
der Wanderer bebt.

Ich höre dich, wenn dort mit dumpfem Rauschen
die Welle steigt,
im stillen Haine geh ich oft zu lauschen,
wenn alles schweigt.

Ich bin bei dir, du seist auch noch so ferne,
du bist mir nah.
Die Sonne sinkt, bald leuchten mir die Sterne.
o wärst du da!

君を想う / ゲーテ

君を想う。太陽のにぶい輝きが
海から私を照らすとき;
君を想う。月のわずかな光が
泉に月自身を描くとき。

君を見る。遠い道に
ほこりが舞い上がるとき;
夜の深い闇に、細い小橋をわたる
旅人の姿がゆれるとき。

君を耳にする。くぐもったざわめきに
波の高まりを感じるとき、
私はよくしんとした森に行き耳を澄ます
すべてのものが沈黙するとき。

私は君のそばにいる。たとえ君が更に
遠くにいても、
君は私の近くにいます。
太陽が沈み、じきに星々が私に輝く、
おお 君がいてくれたら、そこに。

原調 G→演奏 F

第4曲は、「病気の子供の寝床で」と副題のついた子守歌。ヘッベルの原詩は、単に《子守歌》で3節あるが、シューマンは後ろの2節に作曲し、副題を付け加えた。おそらくは、2年前1847年の6月に亡くした長男 Emil (1歳4ヶ月)の思い出が反映されていると考えられる。もっとも、翌年の1月には次男 Ludwig、この1849年7月には三男 Ferdinand が生まれているが。冒頭、主音に対する増4度の音から始まる右手の分散和音が両親の不安を表

す。しかし、「外では昼の光が」という歌詞のところから長 3 和音の 3 連符となり、最後は回復の希望を示す長和音で静かに終わる。

Wiegenlied / Friedrich hebbel
am Lager eines kranken Kindes

Schlaf, Kindlein, schlaf!
wie du schläfst, so bist du brav.

Draußen rot im Mittagsscheine
glüht der schönsten Kirschen eine,
wenn du aufwachst, gehen wir,
und mein Finger pflückt sie dir.

Schlaf, Kindlein, schlaf!
wie du schläfst, so bist du brav.

Immer süßer kocht die Sonne
deine Kirsche, dir zur Wonne;
schlaf denn, Kindlein, leicht bedeckt,
bis der Durst nach ihr dich weckt.

Schlaf, Kindlein, schlaf!
wie du schläfst, so bist du brav.

子守歌 / ヘッペル
病気の子供の寝床で

ねんねんころりよ おころりよ
ぼうやはよいこだ ねんねしな

外では昼どきの陽の光で
一番きれいなサクランボが赤く輝いている
ぼうやが目をさましたら 外へ行って、
摘んできましょう。

ねんねんころりよ おころりよ
ぼうやはよいこだ ねんねしな

太陽の光が おまえが喜ぶように
甘くしてくれた おまえのサクランボ;
でもお眠り ぼうや 毛布をかぶって
のどが渴いてサクランボが欲しくなるまで。

ねんねんころりよ おころりよ
ぼうやはよいこだ ねんねしな

原調 e→演奏 d

op.78 は、以上の 4 曲で終わっているが、終わりがたとしてはすこしさびしいので、op.78 のすぐ前 6 月 1 日から 5 日にかけて作曲された op.101 《ミネネの歌》Minnespiel の中の 2 重唱を 2 曲。「ミネネ」は中世の騎士の形式化された婦人への愛。リュッカートの愛の詩集の各所からとられた詩、全体で 8 曲からなり、ソロが 4 曲、2 重唱が 2 曲、4 重唱が 2 曲はいつている。《私はあなたの樹》は、その第 3 曲で Alt と Baß の 2 重唱。第 1 節は女性が樹となって、第 2 節は男性が庭師となって歌うが、すぐにカノン風の展開となってそれぞれの詩を歌う。

Ich bin dein Baum / Rückert

Ich bin dein Baum, o Gärtner, dessen Treue
mich hält in Liebespfleg und süßer Zucht.

Komm, daß ich in den Schoß dir dankbar
streue
die reife, dir allein gewachsne Frucht.

私はあなたの樹 / リュッカート

私はあなたの樹、ああ庭師さん、その変わる
ことない心
愛情ある世話と思いやりある手入れで私を支
えてくれる、
いらっしやい、私は感謝してあなたのひざの上
にまきましょう
あなただけに 熟して大きくなった果物を。

Ich bin dein Gärtner, o du Baum der Treue!
Auf andres Glück fühl ich nicht Eifersucht;
die holden Äste find ich stets aufs neue
geschmückt mit Frucht, wo ich gepflückt
die Frucht.

僕は君の庭師、おお君 誠実な樹よ！
他の全ての幸運にも僕は決して嫉妬しない；
いつも新しい果実で飾られた美しい大枝を僕
は見つける。
僕が果実を摘みとったところに。

原調，演奏 Es

《千の挨拶》は，《ミンネの歌》の第 7 曲。Sopran と Tenor の 2 重唱。6/8 拍子で Feuerlich (火のように) の指定がある。この曲の元気の良さは，1840 年結婚した頃の若さを思わせる。

Die tausend Grüße / Rückert

Die tausend Grüße,
die wir dir senden,
Ostwind dir müsse
keinen entwenden.
Zu dir im Schwarme
ziehn die Gedanken:
könnten die Arme
auch dich umranken!
Du in die Lüfte
hauche dein Sehnen!
laß deine Däfte
Küsse mich wännen!
Schwör es! ich hör'es:
daß du mir gut bist,
hör' es! Ich schwör' es:
daß du mein Blut bist.
Dein war und blieb ich,
dein bin und bleib ich.
Schon vielmal sang ich's,
noch vielmal sing ich's:

千の挨拶 / リュッカート

千の挨拶を
君に送る。
東風よ、その一つでも
盗み取ってはならない。
思いは熱狂となって
君のもとに引き寄せられる：
もし腕が君を
抱きしめることができるなら！
君よ 大気にはき出してくれ
君のあこがれを！
君のかぐわしき
キスと思いこませてくれ！
誓ってくれ！私はそれを聴こう：
君は私に誠実である。
聴いてくれ！私は誓おう：
君は私の血だと。
私は君のものであった。そうあり続けた。
私は君のものである。そうあり続ける。
幾たびも私はそう歌ってきた。
幾たびでも私はそう歌い続ける。

原調 C→演奏 B

シューマンが歌の年 1840 年までに作曲・発表した曲はピアノ曲だけであった。その中でもっともよく知られているのが《子供の情景》op.15 の第 7 曲《トロイメライ》Träumerei であることはまちがいない。1838 年シューマン 27 歳の 2 月 24 日に作曲された。

2. サティが重唱曲を書いたわけではないので，このステージは独唱曲。それでも，《3 つのメロディー》をここで演奏する理由は，2 曲目の女の子と男の

子の対話が、2人で歌うのにふさわしいと考えたことに尽きる。ちなみにメロディー melodie というのは日本語で言う「歌曲」にあたる。シャンソン chanson というのは一般的に「歌」であるが、日本語でもシャンソンと呼ばれる軽音楽を指すことが多い。サティはメロディーもシャンソンも書いている。



《3つのメロディー》は、1916年5月、デザイナーのジェルメヌ・ボンガール Germaine Bongard, 1885-1971が、パリの自分のブティックで開いた演奏会/展覧会で初演された曲。招待客は詩人のジャン・コクトーなど当時のパリの一流の芸術家たち。ピカソやマチスの画が展示される中、サティがピアノを弾き、ソプラノ歌手ジャーヌ・バトリ Jane Bathori が歌った。詩は、この曲のために、サティが友人たちに頼んで作ってもらったもの。

第1曲は、歌手バトリに捧げられている。詩人ファルグは、ラベルとも親しかった詩人。この詩の「樽のゲーム」jeu de tonneau というのは19世紀後半にはやった遊びで、もともと樽の上に口を開けたカエルの像をおいて、それをめがけてコインを投げ入れるものだった。この時代には、樽ではなく木の台になって、カエルその他の穴が開いている。こういう台が公園に置いてあったものらしい。そう言われれば何かを言いたそうなカエルにも見える。しかし、ものを言うことはできないし、動くこともできない。サティらしい繰り返しの多いピアノにのって歌われる。

La statue de bronze / Léon-Paul Fargue

La grenouille
Du jeu de tonneau
S'ennuie le soir sous la tonnelle...
Elle en a assez
D'être la statue
Qui va prononcer un grand mot, Le Mot !

Elle aimerait mieux être avec les autres
Qui font des bulles de musique
Avec le savon de la lune
Au bord du lavoir mordoré
Qu'on voit là-bas luire entre les branches.

On lui lance à cœur de journée,

ブロンズ像 / ファルグ

カエル
樽のゲームのカエルの像は
あずまやの下 夕方 アンニュイな気分
もうたくさんだ
銅像でいるのは
偉大な言葉を発しようとする、言葉！

他のカエルと一緒にいて
音楽の泡あわを作る方が好きなんだ
月の石けんでね
ブロンズ色の共同洗いの縁で
向こうの枝の間に光って見える所。

昼間は誰かが心臓へ

Une pâture de pistoles
Qui la traversent sans lui profiter.

Et s'en vont sonner
Dans les cabinets
De son piédestal numéroté.

Et le soir les insectes couchent
Dans sa bouche.

ピストル金貨の餌を投げつける
でも通り過ぎるだけでもうからない。

番号付きの
下の小箱に
音をたてて入ってく。

夜には 虫たちが
口の中で寝るしまつ。

2 曲目は、バトリの夫でテノール歌手のエミール・アンジェルに捧げられている。詩を書いたのは、サティの知人で彫刻家ゴデブスキの 17 歳の娘ミミ。ちなみにゴデブスキはラベルにとっても親しい友人で、ラベルがピアノ連弾曲《マ・メール・ロワ》を書いたのはミミとジャンの姉弟のためであった。この詩はフランス語の駄洒落のため、翻訳を読んだだけではわからないかもしれない。クリザリーヌの問いに対してダフェネオは un oisetier だと答える。一本の oisetier oiseau (鳥) の木というような造語 であるが、リエゾンしているので un noisetier (一本のハシバミの木) と区別はできない。当然 noisetier だと思ったクリザリーヌが、ヘーゼルナッツのなる木でしょう、というダフェネオは les oisetier (定冠詞だと noisetier との区別がつく) には oiseau (鳥) になるのだという説明をひねり出す。ただそれだけの、ばからしいといえ、ばからしい歌である。

Daphénéo / Mimi Godebska

Dis-moi, Daphénéo, quel est donc cet arbre dont
les fruits sont des oiseaux qui pleurent?

Cet arbre, Chrysaline, est un oisetier.

Ah!... Je croyais que les noisetiers donnaient des
noisettes, Daphénéo.

Oui, Chrysaline, les noisetiers donnent des
noisettes, mais les oisetiers donnent des
oiseaux qui pleurent.

Ah!...

ダフェネオ / ミミ・ゴデブスカ

ねえ ダフェネオ、鳴いてる鳥がいつば
いっているみたいなあの木はなん
ていうの？

あの木はね クリザリーヌ、鳥の木 (un
oisetier) さ。

へ～！ ハシバミの木 (les noisetiers)
にはヘーゼルナッツがなるもんだと
思ってたわ、ダフェネオ。

ああ クリザリーヌ、ハシバミの木 (les
noisetiers) にはヘーゼルナッツが
なるけど 鳥の木 (les oisetiers) に
は鳴いてる鳥がなるのさ。

へ～！

3曲目は、当時の新進作曲家イゴール・ストラビンスキーに捧げられている。詩を書いたのは、やはりサティの知人であった詩人のシャリュプト。『不思議の国のアリス』に出てくる帽子屋 (mad hatter) の話をフランス語の詩にしたもの。3月ウサギ、眠りネズミといっしょに気ちがいティーパーティに登場するキャラクタ。詩はほとんど原作の引用である(原作では2日ずれているだけのものが3日遅れになっているというちがいはあるが)。楽譜の最初には「グノー風」とある。この曲の冒頭は、グノーのオペラ《ミレイユ》の中の《マガーリの歌》の引用になっている。《マガーリの歌》も南仏の民謡をもとにしているらしい。この曲は、音楽的なパロディを試みたものであろう。



Le chapelier / René Chalupt

Le chapelier s'étonne de constater
Que sa montre retarde de trois jours,
Bien qu'il ait eu soin de la graisser toujours
Avec du beurre de première qualité.

Mais il a laissé tomber
Des miettes de pain, dans les rouages,
Et il a beau plonger sa montre dans le thé,
Ça ne la fera pas avancer davantage.

帽子屋 / シャリュプト

帽子屋はおどろいた
時計が三日も遅れているではないか、
ちゃんと油を差して手入れしていたのに
日がな一日最高級のバターで。

けれど、パンくずを
歯車の中に落としてしまった、
いくら紅茶の中に突っ込んでも
いっこう進みはしない。

サティがパリの楽壇で広く認められるようになったのは、1911年(44歳)頃からのことで、それまでは主として、モンマルトルのカフェやレストランでピアノを弾くことで生計を立てていた。そういったカフェで歌われるシャンソンも作曲していて、サティの歌としてはこちらのほうがよく知られている。《やさしく》Tendrementの詩を書いた詩人イスパも、サティと同じくモンマルトルのカフェ『黒猫』の常連で、サティとのコンビでシャンソンを作ったり、劇を書いたりしている。この曲は、サティの作ったワルツと、イスパの作った詩があとで合体してお互い少し手を入れてできあがったものらしい。最初はイスパが歌い、次いで当時の有名なシャンソン歌手ポーレット・ダルティも歌ってヒットした。

Tendrement / Vincent Hyspa

D'un amour tendre et pur
afin qu'il vous souviene,
Voici mon cœur, mon cœur tremblant,
Mon pauvre cœur d'enfant
Et voici, pâle fleur

REFRAIN

やさしく / イスパ

やさしく 清らかな一つの愛は
あなたが思い出すためにある。
これが私のハート 私のふるえるハート
私の哀れな 幼いハート
これはあなたが花開かせた

que vous fites éclore,
Mon âme qui se meurt de vous

Et de vos yeux si doux.

Mon âme est la chapelle,
Où la nuit et le jour
Devant votre grâce immortelle,
Prie à deux genoux mon fidèle amour.

Dans l'ombre et le mystère
Chante amoureusement
Une douce prière,
Paienne si légère,
C'est votre nom charmant.

Des roses sont écloses
Au jardin de mon cœur,
Ces roses d'amour sont moins roses
Que vos adorables lèvres en fleur.

De vos mains si cruelles
Et dont je suis jaloux,
Effeuilles les plus belles,
Vous pouvez les cueillir,
le jardin est à vous.

蒼ざめた花,
わたしの魂は死にかかっている あなたのために
こんなに優しいあなたの目のために。

1 COUPLET

私のハートは礼拝所
夜も昼も
あなたのとわの優雅さの前に
ひざまづき祈る 私の忠実な愛。

影の中に 神秘的うちに
愛を込めて 歌うのは
一つの甘い祈り,
ごめんなさい 神様,
それはすてきなあなたの名前

2 COUPLET

ばらの花が花開いた
わたしのハートの庭に,
でもその愛のばらの花より
あなたの花のような唇はもっとばら色。

あなたのつれない手
わたしがねたむその手が
最高に美しいものを摘む,
あなたは採っているの
その庭はあなたのものだから。

サティのシャンソンの中で、あるいは、サティの全ての曲の中で最もよく知られているのが、《あなたがほしい》Je te veux だろう。タイトルは知らなくても、聞けばほとんどの人が知っているメロディーである。詩はサティの友人だったアンリ・パコリ。この曲もポーレット・ダルティが歌ってヒットした曲。

Je te veux / Henry Pacory

J'ai compris ta détresse,
Cher amoureux,
Et je cède à tes vœux:
Fais de moi ta maîtresse.
Loin de nous la sagesse,
Plus de tristesse,
J'aspire à l'instant précieux
Où nous serons heureux:
Je te veux.

Je n'ai pas de regrets
Et je n'ai qu'une envie:
Près de toi, là, tout près,

あなたがほしい / パコリ

REFRAIN

あなたの苦しみはわかるわ
いとしい人
あなたの望みにしたがうわ
わたしがあなたの恋人よ。
思慮分別からは離れて
悲しみはもっと遠くにやって、
たいせつなときを待ち望むわ
ふたりが幸せになるそのとき:
あなたがほしい。

1 COUPLET

わたしは後悔などしない、
わたしののぞみは1つだけ
あなたのそば すぐそばにいて

Vivre toute ma vie,
Que mon cœur soit le tien
Et ta lèvre la mienne,
Que ton corps soit le mien,
Et que toute ma chair soit tienne.

全人生をおくること
わたしの心があなたの心
あなたの唇がわたしの唇
あなたの体がわたしの体
わたしの全身があなたの全身になりたいの。

2 COUPLET

Oui, je vois dans tes yeux
La divine promesse
Que ton cœur amoureux
Vient chercher ma caresse.
Enlacés pour toujours,
Brûlés des mêmes flammes,
Dans des rêves d'amours
Nous échangerons nos deux âmes.

ええ、あなたの目の中に
運命が見えるわ
恋するあなたの心が
わたしの愛撫を探しに来るのが。
ずっと抱き合い、
同じ炎に身を焦がし、
愛の夢の中で、
この二つの魂を交わし合うの。

3. ルネサンス期（15世紀後半～16世紀：日本では戦国時代）の音楽を代表するのは、ジョスカン・デ・プレやパレストリーナのミサ曲など宗教曲の分野だろう。しかし世俗曲の分野では、もっとかわいい親しみやすい歌が作られていた。フランス語ではシャンソン、イタリア語ではフロットラやマドリガーレ、ドイツ語ではリートと呼ばれ、これらで流行した曲は、すぐにリュート曲や鍵盤楽器用、またしばしばミサ曲に編曲されてヨーロッパ中に流通した。その中のいくつかは21世紀の現代にいたるまでよく知られている。そのような曲をなるべく原曲の形をとどめつつ2声の対位的に処理してみた。

最初の《生きる限り》Tant que vivray は、クローダン・ドゥ・セルミジ Claudin de Sermisy, c1490-1562 の代表的シャンソン。パリの1528年パリのピエール・アテニャン Pierre Attaignant が出版した4声のシャンソン集に発表された曲。セルミジやクレマン・ジャヌカンらの新しいシャンソンを集めたこの曲集は、パリで出版された初めての楽譜であった。（ちなみにグーテンベルグの聖書の出版は1455年、初めての楽譜印刷は1501年ヴェネツィア）。シンプルなメロディーと構成をもった「パリ風シャンソン」は大流行し、この曲も鍵盤楽器など多くの編曲がなされている。詩はパリの宮廷詩人クレマン・マロ Clément Marot, 1496-1544 のもの。

Tant que vivray

Tant que vivray en âge florissant
Je serviray d'amour le dieu puissant,
En faictz, et dictz, en chansons, et accords.
Par plusieurs fois m'a tenu languissant,

生きる限り

この花咲く時に生きる限り
力ある愛の神に仕えよう
行いと言葉 歌とハーモニーをもって
神は幾度も私を絶望の淵に突き落としたが

Mais après dueil m'a faict réjouyssant,
Car j'ay l'amour de la belle au gent corps.

Son alliance
C'est ma fiancé:
Son cœur est mien,
Le mien est sien:

Fi de tristesse,
Vive liesse,
Puis qu'en amour a tant de bien.

悲嘆の後には再び喜びをくれた
すばらしい体を持つ美女の愛を得た。

彼女が味方であること
それが私の確信
彼女の心は わたしのもの
わたしの心は 彼女のもの

悲しみよさらば
喜びに万歳
愛にはこんないいことがあるのだから。

2 曲目はあまりにも有名な《アルカデルトのアヴェマリア》の原曲。ジャック・アルカデルト Jacques Arcadelt, 1505?-1568 の書いたシャンソンで、1554 年にパリの Le Roy & Ballard から出版された 3 声のシャンソン集第 3 巻に発表され、すぐにギターやリュートの曲集にも収録された。この曲のようなやや大胆な詩は、当時のパリ風シャンソンではめずらしくない。当時の市民生活では男の方が結婚資金を準備するため、かなり貯めこまないと結婚できず、高齢の夫に若い妻という状況が多かったせいという。このシャンソンを《アヴェマリア》に改作したのは、19 世紀フランスの作曲家・指揮者 Pierre-Louis Dietsch, 1808-1865。しかし、《アルカデルトのアヴェマリア》としてこの編曲を有名にしたのは、ドイツの音楽家 Franz Wüllner, 1832-1902 の編集した《コールユープンゲン》Chorübungen der Münchener Musikschule だろう。日本に限らずこの曲は《アヴェマリア》の代表として知られている。

Nous voyons que les hommes

Nous voyons que les hommes
font tous vertu d'aimer
et sottés que nous sommes,
voulons l'amour blasmer.

Ce qui leur est louable
nous tourne à dèshonneur
et faute inexcusable,
o dure loy d'honneur!

Nature, plus qu'eux sage,
nous en ha un corps mis
plus propre à cet usage,
et nous est moins permis.

男たちが

男たちが 愛が男の甲斐性だとするのを
私たちは知ってるわ
女のほうはおろかも
愛をとがめだてしてしまうなんて。

男たちには誉れとなっても
私たちには後ろ指
許し難い間違いだって。
石頭な名誉の掟なこと！

自然、この 男たちより賢いものが
愛に向けた身体を
女たちにくれたというのに
私たちには我慢しろというの。

3 曲目は、本日唯一の宗教曲。《アルカデルトのアベマリア》とはちがいで、生まれたときからの宗教曲。16 世紀後半に生まれて、今なおクリスマスソング

の一つとして親しまれている。ルターの宗教改革以降生まれたコラールの様式（従って単旋律の聖歌）であるが、ルター派ではなくカトリックの教会で生まれたい。確認できる最も古い楽譜は 1599 年に出版された Speyerer Gesangbuch（シュパイヤー聖歌集：シュパイヤーはドイツの地名でカテドラルがある）。待降節（クリスマス前）の歌として使われ、日本の賛美歌集では《エッセイの根より》の題名で知られている。

Es ist ein Ros entsprungen

Es ist ein Ros entsprungen
auß einer Würzel zart,
Als uns die Alten sungen
auß Jesse kam die Art,
und hat ein Blümlein bracht,
mitten in kalten Winter
wol zu der halben Nacht.

Das Röslein das ich meine,
Darvon Jsaias sagt,
Ist Maria die reine,
Die uns das Blümlein hat bracht
Auß Gottes ewigem Raht,
hat sie ein Kindlein gboren,
Und blieben ein reine Magd.

バラが咲きいでた

バラが咲きいでた
か細い一本の根から、
昔の人の歌ったように
エッセイの家系から、
小さな花がもたらされた
寒い冬のさなか
夜半にいたって。

私が歌うそのバラは
イザヤの告げたもの、
純潔のマリアは
私たちに小さな花をもたらし
神の不滅の言葉によって
彼女は幼子を産んだ、
純潔の乙女でありながら。

4 曲目は、これまた有名な受難コラールの原曲。ハンス・レオ・ハスラー Hans Leo Hassler, 1562-1612 の作曲で、1601 年に出版されたハスラーの曲集 Lustgarten neuer teutscher Gesäng（新しいドイツ語の歌の園）に発表された。4 声から 8 声の声楽曲が収められているが、この曲は 5 声で書かれている。1613 年にはすでにコラールとして使われ、1653 年にベルリンのオルガニストであったヨハン・クリューガー Johann Crüger, 1598-1662 がリズムを少し変えて現在知られているコラール O Haupt voll Blut und Wunden とした。もっともこの曲がこれほど有名になったのはバッハの《マタイ受難曲》のおかげであることはまちがいない。コラールの編曲では短調として扱われることの多い旋律であるが、原曲では旋法的でむしろ長調に近い。

Mein Gmüt ist mir verwirret

Mein Gmüt ist mir verwirret
das macht ein Jungfrau zart,
bin ganz und gar verirret,
mein Herz das kränckt sich hart,
hab tag und nacht kein Ruh,

私の心はみだれている

私の心はみだれている
ひとりのたおやかな乙女のために、
どうしたらよいのだろう
悲しみにくれ
夜昼問わず安らぎはなく

führ allzeit grosse klag,
thu stets seufftzen und weinen,
in trauren schier verzag.

Ach daß sie mich thet fragen,
was doch die ursach sei,
warum ich führ solch klagen,
ich wolt irs sagen frey,
daß sie allein die ist,
die mich so sehr verwundt,
köndt ich ir Hertz erweichen,
würd ich bald wider gsund.

ずっと嘆いているばかり
出るのはため息と涙だけ
悲嘆のうちにしぼんでる。

ああ もし彼女が私に訊ねてくれるなら
どんなわけで
そんなに嘆くのか?と
そうすれば、かくさず言おう
それはただただあなたのせいだ
私をこんなに傷つけたのは、
もしあなたの心を和らげることができるなら
すぐによくなるのだけれど。

.....

4. ラベル Maurice Ravel, 1875-1937 の《ハイドンの名によるメヌエット》は、1909年、ハイドンの没後 100 年を記念して音楽雑誌 Revue musicale de la S.I.M. がラベル、ドビュッシー、デュカ、ダンディらに委嘱した曲の一環。「ハイドンの名による」というのは HAYDN のつづりをシラレソにあてて、これをテーマとしていることによる。H=シ、A=ラ、D=レはよいとして、Y=レと N=ソはわかりにくい。これは ABCDEFG の後の 7 文字ずつ (HIJKLMN 等) を ABCDEFG と同一視することで N=G、Y=D になるのだと説明されている。(こうなると H=A だから最初の H はどうしてくれるのだと思うけれど)。曲は 54 小節と短いが、ややサティ的な音もする佳曲。

.....

5. 新実徳英の《のはらうた》は、雑誌『教育音楽 小学版』の 1985 年 4 月号から 1987 年 5 月号まで、別冊付録に発表された 2 部合唱曲。工藤直子の詩集『のはらうた』の第 1 巻と第 2 巻からとられた 21 の詩に作曲されている。うち 11 曲をとりあげる。この詩集は工藤直子の代表作のひとつ。著者名のところに「くどうなおことのはらみんな」とあって、ひまわりあけみさん や からすえいぞうくん など、のはらのみんなの言葉を書き留めたものということになっている。新実徳英が書いた易しい歌では《白い歌・青い歌》のシリーズが有名になったが、この《のはらうた》はその先駆をなす作品である。旋律が先でことばが後に作られた《白い歌・青い歌》よりは、ことばを語るうたとして自然な姿を持っているように思われる。

(宮澤 彰, 歌詞翻訳: 宮澤 彰, 宮澤 友子)

1849年のシューマン

1849年はシューマンにとって「最も実り多き年」であった。120曲あまり（数え方にもよるが）の歌曲，重唱曲，合唱曲，室内楽曲，オーケストラ曲を書き，1840年「歌の年」とともに，シューマンの創作の2大頂点をなしている。1840年がクララとの結婚という出来事と結びついているのに対し，1849年は事件と結びついた年であった。個人的な点では，三男 Ferdinand の出生（6月12日）があるが，彼らにとって6番目の子であり，事件というほどのものではない。事件は5月3日におこったドレスデンでの革命騒ぎである。

1848年の革命と呼ばれるヨーロッパ各国の動乱は，パリの2月革命で王政を倒し第2共和制をもたらした。ドイツ諸国では，（というのは当時のドイツは30を超える国々に分かれていたため，ベルリンを中心とするプロイセン，ウィーンを中心とするオーストリアが2大勢力であったが，シューマンの住むドレスデンはザクセン王国の首都であった），それらドイツ諸国の運動は，出版や集会の自由，憲法の制定という民主化要求と，ドイツ諸国の統一というナショナリズム的要求の2つの形を取っていた。1848年のパリ2月革命の報が伝わると，まずマンハイム（バーデン大公国），次いでウィーン（オーストリア帝国），ベルリン（プロイセン王国），年を越えてドレスデン（ザクセン王国），デュッセルドルフ（西プロイセン）などに動乱が広がった。ドレスデンの市民蜂起は5月3日，集まった市民に対しザクセン軍が発砲したことをきっかけに市民約3千人がバリケードを築いて対抗し，ザクセン王は近くの要塞に逃げ込む羽目になった。しかし，プロイセンからの援軍が到着すると約5千のプロイセン-ザクセン軍に押された市民側は崩壊し，5月9日には動乱が収束した。ちなみに，当時ドレスデンの宮廷指揮者であったリヒャルト・ワーグナーは，活動家のひとりでバリケードに参加し，収束後逮捕状が出されてワイマールに逃げ，しばらくスイス等に亡命せざるを得なかった。

シューマンは，ワーグナーのような活動家ではなかったし，ワーグナーと深いつきあいがあったわけでもない。彼も当時の知識人として民主化運動に共感していたことはほぼ確かであるが，この蜂起に積極的に関わることはなかった。5月5日，一家は汽車で近郊の村に逃げ出す。シューマンと臨月の近い妻クララ，そして1歳から8歳の4人の子供である。実際のところはドレスデンの街にとどまってもおそらく，襲撃や徴発，逮捕ということは起こらなかったと思われるのではあるが。一家は，5月10日にドレスデンの家に戻った。想像になるが，子供たちに危害の及ぶことや，夫

に何らかの働きかけが来ることを恐れて逃避を主導したのはクララの方ではないか。op.78-1《ダンスの歌》の彼女と彼の関係を投影して見るのは、行き過ぎであろうか。

この事件は、シューマンの創作活動に直接の影響は及ぼさなかったようである。この逃避行の最中にも作曲の筆を休めることなく、5月13日にはop.79《子供のための歌のアルバム》29曲を完成させている。この年の後半になっても創作の勢いは衰えず、op.101やop.78を書いている。しかし、1850年に入ると筆が進まなくなってきた。作曲活動は数だけで測れるものではないが、数えてみると1848年約80曲、49年約120曲、50年約30曲、51年約70曲、52年約40曲、53年約50曲。1848年から49年のヨーロッパ動乱の時期に最も活発に創作していたことは確かである。

サティのエピソード

サティは、逸話の多い人である。虚実明らかでないものを含め以下に。

- ・ 遺産でグレーのベルベットの同じスーツを12着買った。毎日その服を着ておりベルベット・ジェントルマンと呼ばれていた。1着を着古すと、次の服に取り替えた、という説と毎日着回していたという説がある。どちらが本当かはわからない。亡くなった後、部屋にはそのベルベットのスーツが6着残っていた（12着という説もある）。
- ・ ピアノ曲の楽譜に発想記号以外のいろいろな言葉を書いた。例えば *Modère, je vous prie*（モデラート、お願いだから）とか *La basse liée, n'est-ce pas?*（バスはレガートに、そうじゃないか？）お話しみたいなものまであり、歌詞かと思う程である。ただし、演奏中声を出して読まないように、とサティがいったとかいわないとか。
- ・ 本日ピアノを弾いている長崎さんが最優秀で卒業したパリのコンセルヴァトワールを、彼は退学になった。ピアノの先生の言では、「全くだめ。1曲をあげるのに3ヶ月もかかった。初見はできない」。もっとも、1905年にフォーレが改革する以前のコンセルヴァトワールは、保守的だったという理由もあるのだろう。
- ・ 1893年27歳の頃、モデル 画家のスザヌ・ヴァラドン（画家ユトリ口の母親、当時28歳）とモンマルトルで半年程同棲した（正確には隣の部屋に住んだ）。サティはプロポーズしたが断られた。これがサティの唯一の女性関係といわれている。
- ・ 《いやがらせ》*Vexation* という曲を書いた。半ページほどのピアノ曲であるが、*Très lent* で、840回繰り返せとある。1893年（ヴァラドン

と分かれた後?)に書いたが、生前には発表しなかった。実際に演奏したところ(10人のピアニストが交代で弾いたという)、18時間以上かかったということである。

- ・ 1897年(31歳)モンマルトルの家賃が払えなくなってパリの南郊アルキュユのアパートに引っ越した。パリの外壁の2kmほど南である。そこからモンマルトルのカフェまで歩いて通った。10km以上、2時間以上かかる道である。数年後にはメトロの建設が始まるし、馬車もあったとは思いますが、歩き続けたようである。
- ・ アルキュユのアパートの部屋には、友人たちの誰も入ったことがなかった。1925年サティが肝硬変のため病院で亡くなった後、弟と作曲家のミヨーらが部屋に入ると、ベッド、机、椅子、棚と古いピアノの他は、12着(6着?)のベルベットスーツ、100本あまりの傘、多くの自筆譜くらいしかなかった。楽譜であるが、ピアノの裏とか、スーツのポケットとか、いろいろなところから出てきたということである。
- ・ サティの部屋のピアノであるが、2台のピアノが上下に重ねてあったという話がある。双方のペダルがつないであったというのであるが、写真もないのでいったいどのようになっていたのか、思い描こうとしてもどうもよくわからない。

宮澤 友子

私は、歌うことが大好きで合唱団員になったアマチュアの音楽家です。これまでに、主に3人の合唱指揮者の指導を受けました。初めての先生は、就職後入部した旭硝子コーラス部の岸信介氏（大声で歌っても文句を言われなかったのが嬉しかった）。次が、女声合唱団アンサンブルミニョンとその後に続く合唱団 OMP の栗山文昭氏（合唱のいろはからプロとの仕事までいろいろ学んだ26年間でした）。そして3人目は今日一緒に歌っている宮澤彰氏（35年余、仲間で指揮者で、ブれない音楽学者です）。私のおさまりきらない声の面倒をみて下さった主な方々、石野健二氏、山内房子氏、大志万明子氏、そして現在の荻堂綾さんです。

宮澤 彰

学生時代から合唱を始める。東京大学柏葉会合唱団で学生指揮者。中世音楽合唱団、クール・プリエール、東京オルフェオンに所属、合唱団 OMP で団内指揮者を17年つとめる。声楽を築地文夫氏、石野健二氏に師事。

長崎 麻里香

4歳よりピアノを始め、12歳より東邦音楽大学総合芸術研究所に研究生として在籍。F・ジャキーノ氏の勧めにより15歳で渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院、ピアノ科コンサートディプロマ、室内楽科高等演奏家ディプロマを取得。パリ国立高等音楽院ピアノ科を満場一致の首席で卒業。

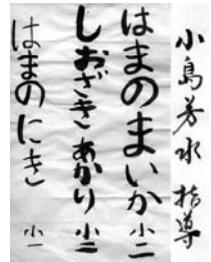
1999年 F. Poulenc 国際ピアノコンクールにてブーランク作品優秀賞。2000年 St-Nom-La-Breteche 国際コンクールにて最年少優秀賞を受賞。パリ Salle Cortot でのソロリサイタル、A.コルトー記念演奏会、その他スペイン、アメリカ等、欧米各地での演奏会に出演。ソロのみならず、室内楽奏者、伴奏者としても幅広く活動している。

ピアノを石橋礼子、藤井一興、F. ジャキーノ、M. ベロフ、D. パスカル、E. ル・サーージュ、ソルフェージュを隈晶子の各氏に師事。

大場 点

古くからの合唱仲間。リコーダー、友情出演。

Thanks to



川里 久雄

川里 洋子

松井（荻堂）綾

松井 武臣

堀切 由美子

渡部 千賀子(ドイツ語指導)

鈴木 利一(表紙 絵)

本日の木戸銭は、全額を「朝日新聞厚生文化事業団」を通じて、東日本大震災で両親を失った孤児への「子供応援金」など、被災した子ども、障害のある人、高齢者らの支援事業に Ensemble SolLa の名前で寄付させていただきます。ありがとうございました。

アンサンブル ソラ
Ensemble Sol La 3

at 横浜みなとみらいホール
レセプションルーム